

(対象事業：地域連携強化事業・地域文化資源整備活用事業・ミュージアム支援地域人材育成事業・国際交流拠点形成事業)

事業名：地域・学校・子どもをつなぐ郷土の美術館の可能性  
—小磯記念美術館からの発信—

事業者名：神戸市立小磯記念美術館

住所：兵庫県神戸市東灘区向洋町中5丁目7

TEL：078-857-5880

FAX：078-857-3737

HPアドレス：<http://www.city.kobe.lg.jp/koisomuseum/>

連携事業者名：神戸市幼小中高等学校、特別支援学校、神戸大学、神戸ファッション美術館、神戸ゆかりの美術館

会場：神戸市立小磯記念美術館とその周辺

事業期間：平成21年6月1日～平成22年2月28日



## 1. 館の使命と本事業の関係

当館は、誰よりも深く神戸を愛した小磯良平のすべての画業を顕彰し、彼を取り巻く文化的風土の解明を進めている。神戸の地域的な特性を発信し、次世代へ文化の継承をしている。

当館収蔵の作品を学校や子どもたちに発信することで、郷土を愛し、神戸の文化を継承していく人材が育つ。そこで、教員からなる《教材開発委員》で鑑賞カードを編集、作成、実践し、子どもたちが他者と関わりながら美術作品を楽しみ、場を共有している他者と共に郷土を愛する心を培う。また、地域に根ざした美術館として、美術を通して人と人をつなぐ場を提供し、地域へ積極的に美術文化を発信する。そして、神戸の美術から自己を見つめ、他者と関わり、新たな自己を発見できる手助けとなる地域の美術館をめざす。

## 2. 企画内容

### ①事業目的

郷土の画家小磯良平の作品を中心とした美術を、有効な方法で学校や地域に提供し、地域に根ざした人と人をつなぐ美術館としての可能性を探ろうとするものである。郷土を愛する画家の作品鑑賞は、自己肯定感が高まり、他者と積極的に関わろうとする人材の育成にもつながる。また、立場の違いや多様な人材を活かしたネットワークを強化し、普及活動を実践することで、神戸の文化を継承する地域の美術館のあり方を具体的に探ることができる。

### ②事業概要

#### ア、収蔵作品・小磯作品を活用した鑑賞教材の開発と実践

神戸市の教員と連携し、小磯良平作品や収蔵作品の鑑賞カードを作成。鑑賞カードを活用した授業を実践し、多くの児童生徒に美術鑑賞の楽しさを提供。

#### イ、先生のためのナビゲーター養成研修

鑑賞カードを活用するための、対話を基本とした鑑賞のナビゲーター研修を実施。

#### ウ、美術を通して地域をつなぐ

美術を通じたコミュニケーションから人と人、人と街をつなぐ担い手としての美術館の可能性の探究。当館周辺の野外で、アーティスト25組によるワークショップの実施。

#### エ、美術と地域をつなぐ記録集の編集と作成

美術と地域をつなぐRICアートカプセル2009の活動記録の作成と発信。

### 3. 事業実績

#### (1) 事業の主な内容及び日程

郷土の画家小磯良平作品を中心とした美術をさまざまなかたちで学校や地域に提供し、地域に根ざした美術館としての可能性を探った。

また、美術を推進する人材や神戸の文化を継承する人材の育成を図った。

#### ○学校・子どもとつなぐ

##### ア、収蔵作品・小磯作品を活用した鑑賞教材の開発と実践

①神戸市の教員で教材開発委員会を組織し、鑑賞学習カードの編集と作成をした。

(6月～8月)

鑑賞教材『小磯さんカード』・『コレクションカード』は、郷土の画家として神戸を生涯愛し続けた小磯さんの生き様にふれることができ、活用することで郷土を意識できるよう作品を選出した。

②鑑賞教材カードを活用した授業を教材開発委員会で開発し、委員が所属する学校で発達段階に合わせた鑑賞学習を実践した。

さらに、実践報告会を開催し、各校での鑑賞教材活用や発達段階を含めた効果的なカードの活用を共有し、改善点などを話し合った。(2月)



教材開発委員会で作品検討

##### イ、先生のためのナビゲーター養成研修

- ・神戸市の教員(小・中・特別支援学校)と神戸大学発達科学部の学生を対象に、鑑賞ナビゲーター研修を行い、次世代へつなげる鑑賞教育を進める人材を育成した。(7月～8月)
- ・RIC アートカプセル2009で、参加の幼児・児童生徒を対象に鑑賞ナビゲーターの実践を行った。(10月)



鑑賞ナビゲーター研修の実践

#### ○地域とつなぐ

##### ウ、美術を通して地域をつなぐ場の提供(8月～11月)

- ・野外型アートワークショップイベントのRIC アートカプセル2009(10月17日、18日)で、若手アーティスト25組と近隣の2美術館のワークショップを通し、地域の人々にさまざまな形で美術を提供した。
- ・事前開催として、地域の小学校にアーティストを招き、共にアートを共有する事業を行った。また、アートを通して、コミュニケーションを図り、人と人・人と街をつなぐ役割を探った。



木製パレットを使った作品

- ・地域を意識した地元産の材料（六甲アイランド臨港地区にある木製パレット）を使ったアート提案を招聘作家により行った。

## エ、美術と地域をつなぐ記録集の編集と作成

- ・地域、学校への発信として、美術と地域をつなぐ記録集の編集と作成し、地域、学校、美術館、大学など関係機関へ配布した。（11月～2月）

発行部数 2,000部

## （2）参加者の数

参加者人数 延べ 39,310人

内 訳： 「こいそさんカード」児童生徒活用数 18,800人  
「コレクション+カード」児童生徒活用数 16,300人  
ナビゲーター研修受講者 110人（教員）  
RIC アートカプセル 2009 参加者 4,100人

## （3）事業により作成した印刷物等

- ・鑑賞学習教材：小磯記念美術館の「コレクション+カード」20,000部
- ・鑑賞学習教材：「こいそさんカード」20,000部
- ・活動記録集：「RICアートカプセル 2009」2,000部
- ・ポスター：「RICアートカプセル 2009」B2 100枚
- ・ポスター：「RICアートカプセル 2009」B3 500枚
- ・チラシ：「RICアートカプセル 2009」1,500枚
- ・立看板：「RICアートカプセル 2009」3枚

## （4）実施事業に関する新聞記事等

### ○新聞記事

2009年10月10日読売新聞	朝刊	広報記事
2009年10月18日読売新聞	朝刊	実施記事

### ○テレビ、関連誌等

11月4日（水）～10日（木） ケーブルテレビ

「六甲アイランドアワー」での六甲アイランド小学校におけるアーティストインスクールの様子を撮影した15分番組

#### 4. 事業の成果及び今後の課題（参加者の意見を含む。）

##### 事業の成果

##### ○学校・子どもをつなぐ美術館の具現化

- ・小磯作品ならびに神戸ゆかり作品を活用することで、郷土を愛し、神戸の文化を継承しようとする人材が育まれている。
- ・多くの教員と連携してすすめることで、教員の鑑賞教育に対する意識が高まり、子どもにとっての美術館の良さを理解し、美術館活用の機会が増加している。

##### （参加者の意見）

- ・子どもたちが美術に興味を持ち、家族を誘って美術館に行く児童が増えた。
- ・鑑賞教材カードはたいへん活用しやすく、さまざまな方法で鑑賞教育を実践することができる。子どもたちも大好きでよくカードを鑑賞している。
- ・ナビゲーター研修で、教師自身が作品を楽しむことを味わい、子どもたちへの鑑賞学習の意義を強く感じていた。

##### ○地域をつなぐ美術館の具現化

- ・地元アーティストによるアートワークショップを地域に発信することで、美術を身近に感じ積極的に美術に親しむ姿がたくさん見られた。
- ・地域に根ざした身近な美術館としての新たな認識を促し、美術館活動に目を向ける人が増えている。

##### （参加者の意見）

- ・ワークショップを通して、子どもと日常では生まれない会話ができ、いろいろな話をした。
- ・普段から美術に関して余り興味がなく、絵の見方もよく分かりません。でも色んな見方があって型にはまらず、自由に感じられたらいいんだと思うことができてよかったと思っています。そしてそう思えることが人に対する優しさとか、自分の存在感を確められることにもつながるように思います。このような大きなイベントは特に大変だと思いますが是非続けていただけたらと願います。ありがとうございました。
- ・六アイに下宿して2年半、マンションの隣の住民の名前すら知らないくらい六アイの人との交流がありませんでした。普段ならすれちがうだけの小学生や家族と一緒にペーパークラフトを作り、“ここ難しいー”と言いながらも、完成を喜んだり・・・そんなやりとりができて、とてもあたたかい気持ちになりました。また、スタッフの方々ともたくさん話し、準備や片付けをしたので、短い期間で仲間になったような気がしました。
- ・ものを作ったり体験したりする事を子供達がアートとして捉えているのではなく、純粹に楽しんで手先や体を動かし、頭を使いながらアートというものに触れていくのがとても良い事だと思いました。このように子供達の暮らしの中にアートというものがごく自然に定着していくと、いつか言葉や態度に表すことの出来ない感情と対面した時、気持ちを表現するためのひとつになると思った。

##### 今後の課題

- 各学校で鑑賞学習教材を積極的に活用できるように、具体的な実践例の提供が必要である。
- 地域に根ざし、より親しみやすい美術館にするために、美術を発信するための事業を今後も継続していかなければならない。そのために、地域ボランティアの育成が必要である。
- 神戸の美術を継承するために、より積極的な広報活動が重要である。